

対象保存区



伐採後の状態
(列状伐区 列状保存区)



採伐区
伐採前の状態



採伐区
伐採後の状態



伐採後の状態
択伐区 (遠影)

樹高曲線云調査野帳として
使用した。年月日記入

樹高曲線云調査野帳 112大 林小班 伐区

表区分	区	物件整理番号 詳細番号	一級 林種	材質種	令番号	林令	用途	樹種	標準地 調査木	調査日	調査年月日
1	3	5 6	9	11	12	13	14	17	19	23	24
0	3								サツ		

広葉樹天然林
技術用発所
洞河原 112大 林小班
採伐区域 0.52ha

伐持前調査
(残しておく立木の数量)

直径	本数	本数計	材積 一木当り	積算 材積	備考
25		23			
24		34	/		
30		40	/		
40		46			
45		52			
50		58			
60		64			
70		70			
75		76			
80		82			
85		88			
90		94			
97		100			
100		106			
110		112			

24 1行毎に本数計をとること。直径は頭不同でもよい。 2

樹高曲線云調査野帳 林小班 伐区

表区分	区	物件整理番号 詳細番号	一級 林種	材質種	令番号	林令	用途	樹種	標準地 調査木	調査日	調査年月日
1	3	5 6	9	11	12	13	14	17	19	23	24
0	3								サツ		

直径	本数	本数計	材積 一木当り	積算 材積	備考
25		23			
24		34	5		
26		40			
28		45	3		
30		46	2		
2		52	3		
34		58			
36		64	/		
38		70	3		
40		75	/		
42		82			
44		88	/		
91		94			
97		100			
100		106			
110		112			

24 1行毎に本数計をとること。直径は頭不同でもよい。 17

樹高曲線云調査野帳 林小班 伐区

表区分	区	物件整理番号 詳細番号	一級 林種	材質種	令番号	林令	用途	樹種	標準地 調査木	調査日	調査年月日
1	3	5 6	9	11	12	13	14	17	19	23	24
0	3								2		

直径	本数	本数計	材積 一木当り	積算 材積	備考
25		23			
4		34	238		
6		40	214		
8		46			
10		52	117		
12		58	61		
14		64	57		
16		70	56		
18		76			
20		82	55		
22		88	44		
24		94	43		
26		100	42		
28		106			
30		112			

24 1行毎に本数計をとること。直径は頭不同でもよい。 927 合計 946

地調査野帳として
使用し、必要事項を記入

樹高曲線法調査野帳

林小班 伐区

区	号	物件整理番号 1 2 3 4 5 6	一 切 伐 除 番号 7 8 9	材 質 番号 10 11 12	令 号 番号 13 14	用 途 番号 15 16	樹 種 番号 17 18	標準地 調査 番号 19 20
0	3						ナツメ	

調査員 調査年月日

広葉樹天然林
技術開発所

洞河原 112 林小班

採伐区域 0.52ha

(伐採後の調査
残存立木数量)

(樹高は 62 年度調査予定)

直径	本	木数計	材	積	備
28		28			
31	24	34		/	
37	30	40		/	
43		43			
49		52			
55		58			
61		64			
67		70			
73		76			
79		82			
85		88			
91		94			
97		100			
103		106			
109		112			

計 1行毎に本数計をとること。直径は順不同でもよい。 2

高曲線法調査野帳

林小班 伐区

地調査野帳として
使用し、必要事項を記入

区	号	物件整理番号 1 2 3 4 5 6	一 切 伐 除 番号 7 8 9	材 質 番号 10 11 12	令 号 番号 13 14	用 途 番号 15 16	樹 種 番号 17 18	標準地 調査 番号 19 20

調査員 調査年月日

直径	本	木数計	材	積	備
		28			
24		34		2	
28		34		2	
34		40		4	
38		46		2	
44		52		/	
50		58		/	
56		64		2	
62		70		2	
68		76		2	
74		82		2	
80		88			
86		94			
92		100			
98		106			
104		112			

計 1行毎に本数計をとること。直径は順不同でもよい。 17

樹高曲線法調査野帳

林小班 伐区

地調査野帳として
使用し、必要事項を記入

区	号	物件整理番号 1 2 3 4 5 6	一 切 伐 除 番号 7 8 9	材 質 番号 10 11 12	令 号 番号 13 14	用 途 番号 15 16	樹 種 番号 17 18	標準地 調査 番号 19 20
0	3							

調査員 調査年月日

直径	本	木数計	材	積	備
28		28			
31	4	34		//	
37		40			
43	6	46		/ 4 6	
49		52			
55	8	58		4 8	
61	10	64		5 10	
67	12	70		6 12	
73	14	76		6 14	
79	16	82		5 16	
85	18	88		4 18	
91	20	94		4 20	
97	22	100		2 22	
103	24	106		1 24	
109	26	112		9	
115	28			1	

計 1行毎に本数計をとること。直径は順不同でもよい。 54 合計 870

技術開発所 地上立木 内訳表 (取巻数量)						
林小班	種別	面積	樹種	本数	材積	備考
112 ㌹	刈伐区	0.27	広 1	12	4.58	低質材
			広 2	889	62.51	
		計		901	67.09	
"	"	0.22	ナ"	2	1.30	一般材
10㌹			広 1	10	4.16	低質材
			広 2	717	48.98	"
		計		729	54.44	
"	皆伐区	0.50	イ 2	1	1.56	一般材
			サ 7ラ	1	0.41	
6㌹			広 1	20	2.13	低質材
			広 2	1645	128.78	
		計		1667	139.88	
"	採伐区	0.52	イ 2	3	2.68	一般材
			17ラ	1	0.74	
7㌹			広 1	9	5.64	低質材
			広 2	115	81.39	
		計		128	90.45	
計		1.51		3425	351.86	

技術開発所 地上立木内訳表 (採伐所 残立物件)						
林小班	種別	面積	樹種	本数	材積	備考
(伐採前)						
112 ㌹	採伐区	0.52	サ 7ラ	2		一般材 24cm ²
			ナ 7"	17		24cm ²
			その他広	927		低質材 4~22 ^{cm}
			計	946		
伐採後						
112 ㌹	採伐区	0.52	サ 7ラ	2		
			ナ 7"	17		
			その他広	858		
			計	877		

様式 2

課題	継続・新規別			担当課	開発箇所	期間
	継続		指示・自主別			
	経常・特別別	経常				
広葉樹天然林更新施業法	継続		自主	造林課	大根占	昭和61年度 昭和70年度
全体計画		実施報告		昭和62年度実施計画		評価および普及計画
		昭和61年度までの実施経過を記入のこと		昭和62年度実施結果を記入のこと		
<ol style="list-style-type: none"> 試験地設定 伐採搬出状況調査 保残立木の調査 保残数量、伐採方法の適否調査 更新稚樹の生育調査 有用樹の生育調査 有用樹の保育方法調査 昭和70年度までとし、継続等についてはその時点で検討する。 		<ol style="list-style-type: none"> 試験地設定 <ol style="list-style-type: none"> 昭和61年7月現地設定 昭和61年11月試験地内立木販売 同時に試験地伐採搬出方法説明、指導 伐採搬出状況調査 <ol style="list-style-type: none"> 採伐区域内で伐倒木周囲の一部立木に対する損傷、被害が見られるも、ほぼ計画どおり作業が進められ完了した。 列状伐区での伐採、搬出は計画どおり実行され、特に被害等の発生は見られない。 		<ol style="list-style-type: none"> 保存立木の調査 保存数量、伐採方法の適否調査 		<ol style="list-style-type: none"> 保存立木の調査 保存数量、伐採方法の適否調査

(様式4) ~ /

課 題

広葉樹天然林更新施業法

1. 保存立木の調査

(1) 択伐区の損傷率調査 (No①)

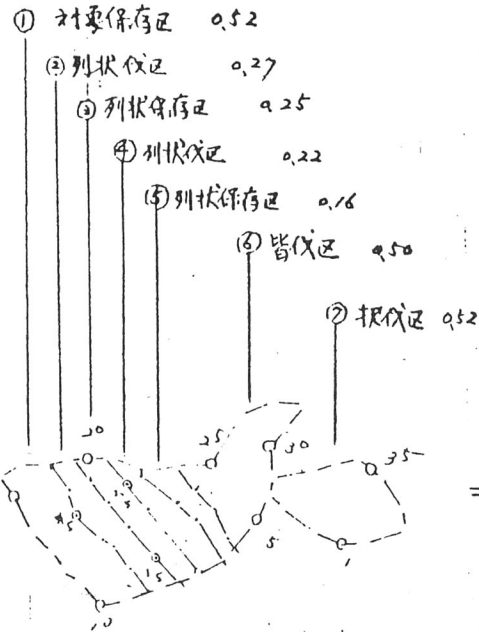
調査木	本数 _本	材積 _{m³}
伐採前 ①	1108	158.78
伐採計画 ②	128	90.45
保存計画 ③	980	68.33
伐採後 ④	807	57.63
損傷率 $\frac{④-③}{③}$ ⑤	7%	16%

(2) 列状保存区状況 (No① No③ No⑤)

対象保存区、列状保存区については損傷は見られない。

2. 伐採方法等の適否調査

集材方法は択伐区を林内車で、列状伐区を架線集材で、集材による損傷木はほとんどないが、択伐区の損傷木(本数6% 材積16%)は大径伐倒による損傷木である。やむを得ないものと思われる。



実測図

宇洞河原 112区 杉班内
 管則面積 244R²
 係残木施業指標林設定分析